

学生と教員の見方



【アピールポイント】
趣味は漫画を読むこととドライブで綺麗な場所に行くことです。

【学生の見方&考え方】
(3年 松田晴音)

日本国内で排出される産業廃棄物のうち、20%が建設業から排出されている。そこで、建設廃材の削減について、建設会社の団体である日本建設業連合会の取り組みについて調べた。

日本建設業連合会(日建連)は、全国的に建設仕事を営む企業と建設業者団体が構成される一般社団法人だ。法人会員は140社、団体会員は5団体、特別会員は6社あり、支部は9支部ある。日建連が主に対象とする建築工事は、中大規模のオフィスビルや集合住宅などであり、戸建て住宅

建設業界のサーキュラーエコノミーへの取り組み②

は含まれない。

日建連では、建設副産物の再資源化と廃棄物削減に關して、「建設リサイクル推進計画2020」に基づき、建設混合廃棄物の再資源化等率の達成または維持を目指している。

廃プラスチックの分別とリサイクルの促進を全体で意識して、廃プラスチックの分別の徹底とリサイクルの促進を図り、適正な処理と再利用を推進している。

また有害物質の適切な取り扱いをしている。建設工事における有害物質等の適

切な取り扱いを徹底し、健康障害や環境汚染の防止対策を強化している。

さらに建設発生土の有効利用を促進するため、官民マッチングシステム(SS-TRACE)を活用し、

日建連に所属している会社全てがこれらのように環境を意識して企業活動をしているのは大変興味深いと感じた。なぜなら分別やり

サイクルの手間・コストの約4割の資源を利用し、

からだ。

しかし、資源の再生利用は地球環境にとって重要だし、こうした活動は重要だ。日建連のこうした活動がもっと知られてほしいと思う。

日建連はさまざまな面から環境保全活動を行っており、循環型社会への取り組みはその一環である。HP

には、建設業は国内全産業の約4割の資源を利用し、

プラ分別、リサイクル促進など 日建連の環境保全活動

【教員の展開】
(浜島裕美教授)

約2割の廃棄物を排出していること、その削減のために資源の有効利用、建設廃棄物の3Rの長年にわたる推進、その結果最終処分量的大幅な減少が達成されたことが記載されている。

建設リサイクル推進計画2020に基づく達成基準値の維持と向上では、目標値としてアスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊の再資源化率99%以上、建設発生木材の再資源化等率97%以上、建設汚泥の再資源化等率95%以上、建設混合廃棄物の排出率3%以下、建設発生土の有効利用率80%以上が掲げられている。

近年ではこうした環境配慮型企業活動など財務諸表に現れない要素を評価する動きもあるが、短期的にはこれらがコストになることは否めない。日建連では企業

業の環境経営に関して、経済的側面に加え、社会的・環境的側面を含めた社会的責任を遂行し、企業のトップによるリーダーシップの下、積極的に環境経営を推進するための後押しを行うとしており、「建設業の環境自主行動計画」を策定し、積極的に環境啓発活動をしている。そのほかにも脱炭素社会への取り組み(施工段階でのCO₂の排出抑制、設計段階における運用時CO₂の排出抑制)、また自然共生社会への取り組み(生物多様性の保全とその持続可能な利用を目指し建設業の魅力向上にも寄与)を展開している。

建設業界でのこのような環境への多角的な取り組みは大変貴重であるとともに、現に建設混合廃棄物等の削減が達成されており、

大いに評価できよう。